

2025年3月期 第1四半期 決算説明会 質疑応答要旨

《1Q業績と今期見通し》

Q1：通期業績予想修正の背景について教えてください。

A1：今回の通期業績予想について、上期は上方修正しましたが、下期は4月25日の前回発表値から変えていません。上期については、主に為替の影響、コストUPの売価転嫁や値下げの抑制、労務費・経費削減が上方修正に寄与しています。1Q実績での上振れのみではなく、2Qも同様の上振れを予想しており、上期業績見通しに反映しています。下期については前回発表値と比較すると、為替前提を145円から150円に引き上げましたが、トヨタの生産台数は日本・中国において若干減少と予想しており、為替のプラスと、物量のマイナスで、全体では大きな変動はないと予想しています。

Q2：1Qと比較して2Qは減収減益と予想されているが、2Q見通しの背景を詳しく教えてください。

A2：2Qは、1Q比で販売物量若干減少の見通しです。特に北米金型売上の減少が欧米地域の利益減少に大きく影響しています。日本とアジアの物量に関しては、大きな変動は予想しておりません。

Q3：営業利益は、上期50億円、下期65億円と予想されている。下期増益想定を教えてください。

A3：トヨタ生産台数は上期に対し下期が増加すると予想しています。地域別には日本、アジアにおいて、下期に物量が増加すると予測しており、中国も上期の落ち込みから下期は若干反動増が見込まれます。北米の生産台数については堅調な推移が見込まれているものの、金型の売上減少が利益に影響を及ぼします。結果として、各地域での物量増加が利益増加に寄与すると見込んでいます。

Q4：トヨタ生産台数前提について、具体的な台数を教えてください。また、日本と中国の下期台数を見直した背景を教えてください。トヨタから展開があった台数なのか、それとも太平洋が自社で想定している台数なのか、把握している情報があれば教えてください。

A4：当社が影響を受けるのは日本、北米、中国の3地域の生産台数です。具体的な数字は開示していませんが、上期は全体で前年同期比10%弱の減少を予想しています。下期については、日本と米国は前年同期比で回復が見込まれますが、一方で中国は引き続き弱く、トータルでは若干のプラスになるという予想をしています。台数前提は当社の試算によるもので、日々状況が変わるため、新しい情報が入り次第見直しをしています。下期に国内の増産が見込まれる場合は、計画に反映させていく方針です。

Q5：業績見通しにプラスに反映されている値下げ抑制について、背景を教えてください。当初は保守的に計画したのに対し、交渉が順調に進んだという理解でよいのか。

A5：ご理解の通り、当初の計画よりも主要顧客の価格改定交渉が順調に妥結できたという点と、以前に比べ、その他の顧客も値上げが必要な状況をご理解いただける傾向にあり、両方の面で値下げ抑制に至りました。

《中期見通しについて》

Q6：2024年度は踊り場的になると理解しているが、中計期間の2026年度までを大局的にみて、個社要因で業績を下支えするために取り組んでいる施策、今後貢献を期待できる要因について教えてほしい。

A6：プレス・樹脂、バルブ、TPMSと各事業において、新製品の開発が進んでおり、受注も順調に進行しています。2025年度も引き続き設備投資が必要になると想定しており、投資による償却負担はあるものの、過去の投資を含めて売上と利益で結果を出し、2026年度には中期経営計画の目標を達成するべく尽力しています。

《その他》

Q7：政策保有株の売却について、有価証券報告書を確認すると、トヨタ自動車の株式の一部を売却したとのことだが、どの程度の保有が妥当と考えているのか、また今後さらに売却を進めていくのか教えてほしい。

A7：中期経営計画の一環として政策保有株式の純資産比率を20%以下にすることを目標としています。今年6月末の比率は19.9%となっており、今後も売却を進める方針です。トヨタ自動車株以外にも保有株があり、優先順位をつけて売却を進め、純資産比率20%を十分に下回るレベルを目指します。その先の考え方については現在社内で議論を進めており、後日新たな財務戦略として説明させていただきたいと考えています。

Q8：トヨタ自動車の株式売却について、他のグループ各社と比較しスムーズに進んでいるように感じるが、申し出時の相手の反応や、どうしてスムーズに売却が進められたのか教えてほしい。

A8：先方とのコミュニケーションの中で、当社が株式売却する理由をお伝えし、先方にもご理解いただいたうえで売却を進めました。

以上